

2026年度（2027年3月期）
第1四半期

決算説明資料

2026年8月6日

保土谷化学工業株式会社

証券コード：4112（東証プライム）

1Q
FY2026

1.

2026年度 第1四半期 決算概要（連結）

2.

**各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向**

1.

2026年度 第1四半期 決算概要（連結）

2.

各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向

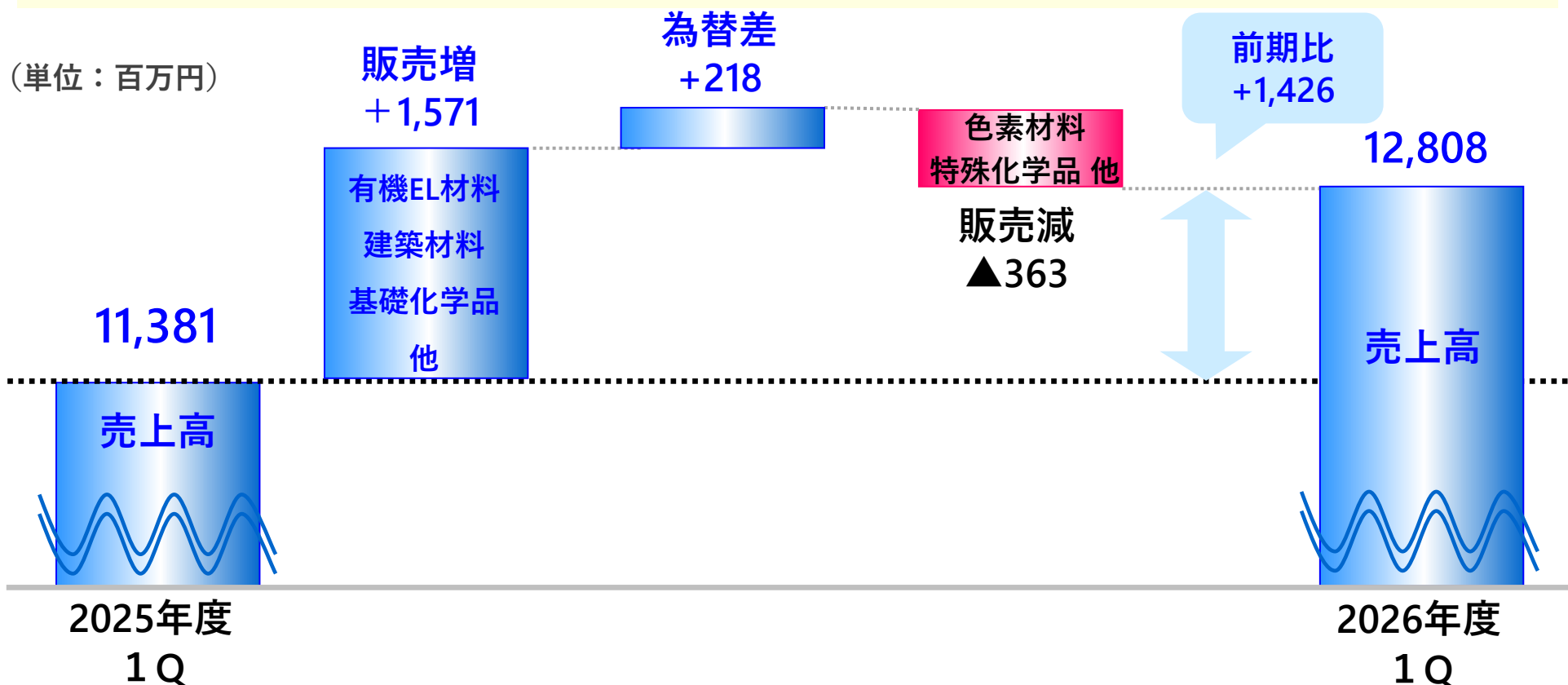
< 2026年4月1日～2026年6月30日 >

連結経営成績 (金額単位：百万円)	2025年度 1Q		2026年度 1Q		前期比 増減		2026年度 業績予想 < 通期 > 2026/5/15 発表	進捗率 (%)
	利益率(%)		利益率(%)		増減額	増減率(%)		
売上高	11,381	—	12,808	—	+1,426	+12.5	52,000	24.6
営業利益	985	8.7	1,609	12.6	+624	+63.4	3,400	47.3
経常利益	1,245	10.9	1,875	14.6	+629	+50.5	3,300	56.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	615	5.4	1,014	7.9	+399	+64.9	1,300	78.0

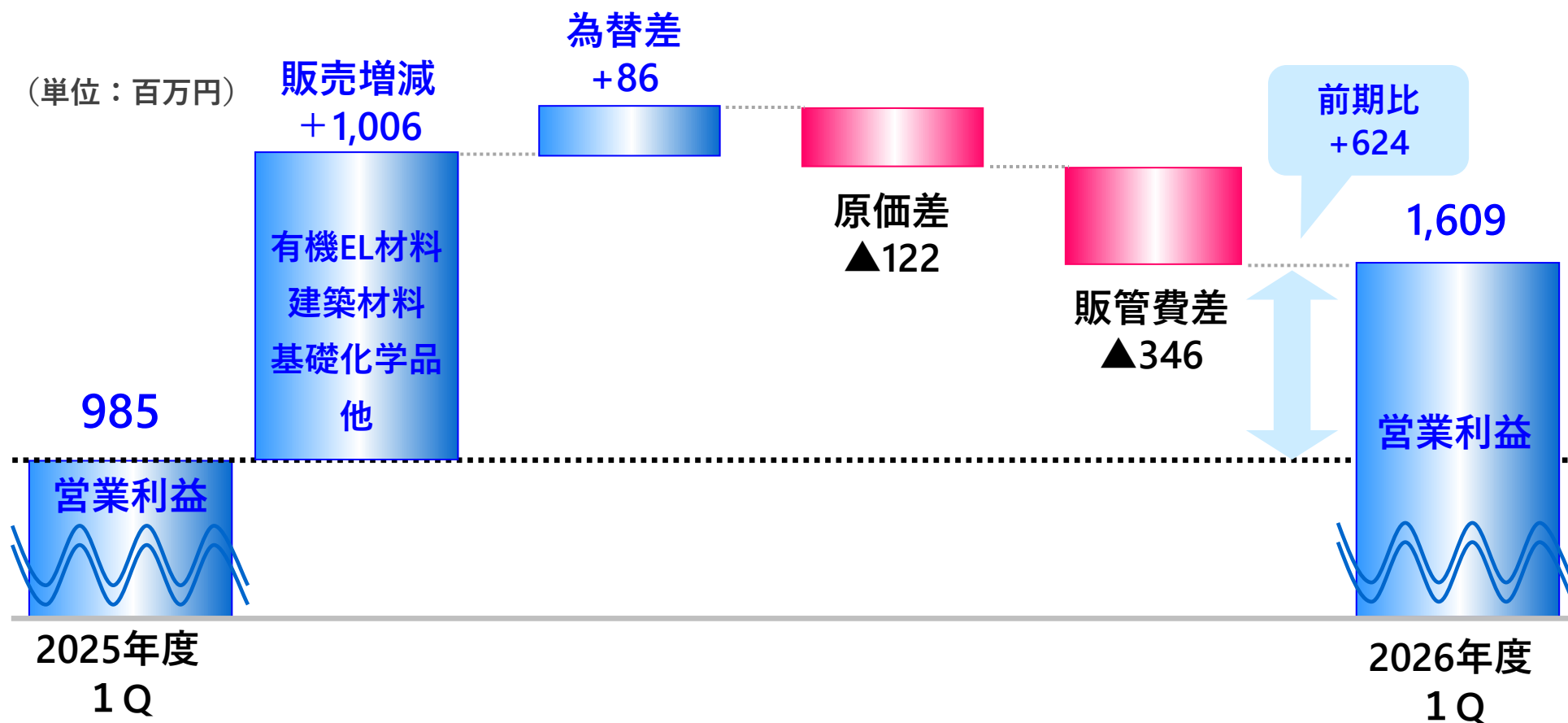
- 2026年度1Qの業績は、期初に公表した通期の業績予想に対し、概ね計画通り推移しております。
- 当社の通期業績予想は年間を通じた需要動向や市場環境を総合的に勘案したうえで策定しており、第2四半期以降の原材料価格の変動やサプライチェーンへの影響懸念など、依然として不透明感が残ることに加え、将来の成長に向けた企業買収に伴う一過性費用の発生が見込まれるため、現時点では期初に公表いたしました通期業績予想を据え置きます。

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	為替レート (期中平均)	2025年度 1Q	2026年度 1Q
1株当たり 四半期純利益	38.71 円 銭	63.72 円 銭	USD / JPY	143.77	160.74
			KRW / JPY	0.1038	0.1064

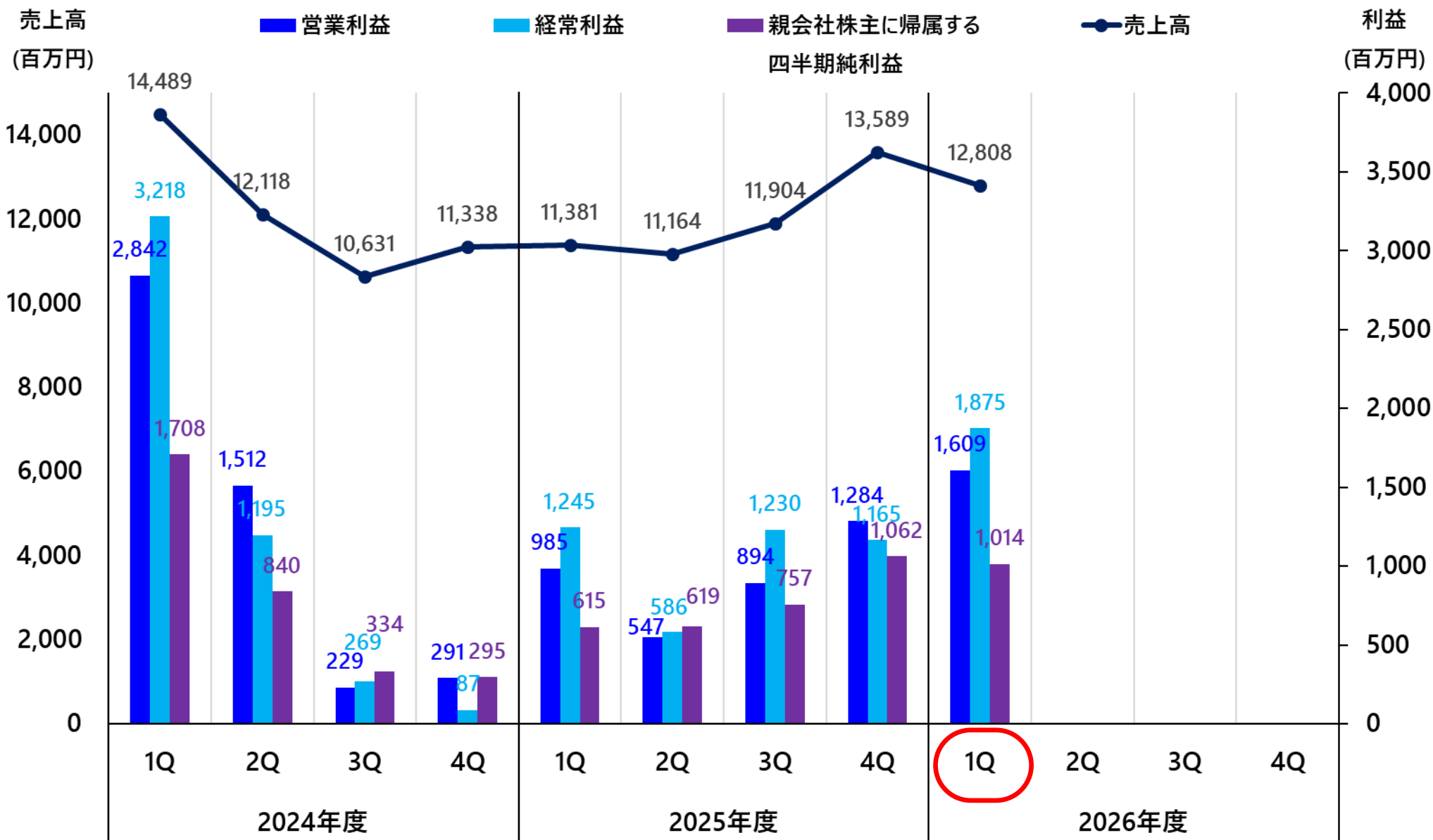
2026年度 第1四半期連結累計期間において、
機能性色素セグメントの有機EL材料の販売が増加したこと等により、
売上高は前年同期比1,426百万円増（12.5%増）の12,808百万円となりました。



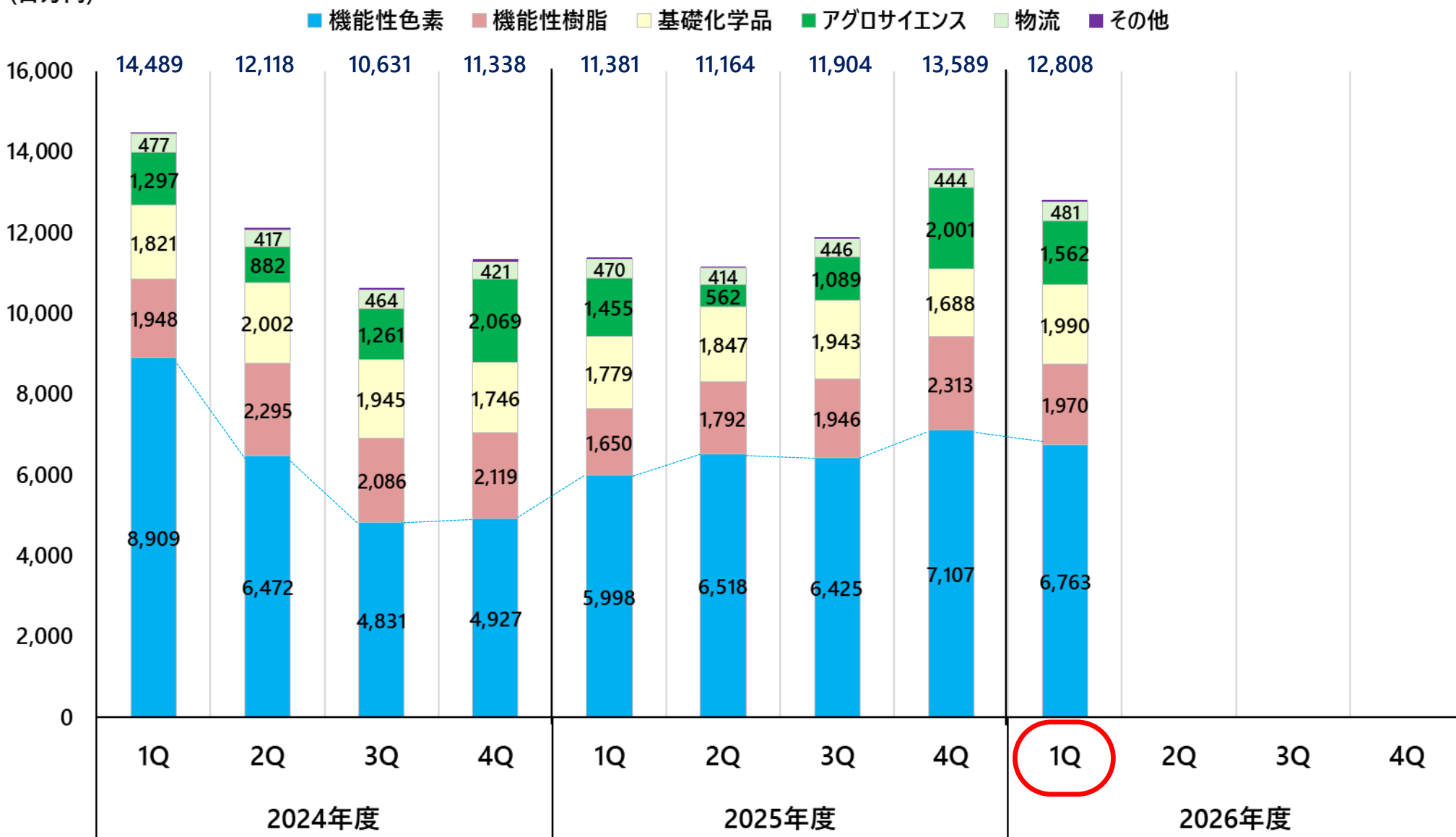
2026年度 第1四半期連結累計期間において、
機能性色素セグメントの有機EL材料の販売が増加したこと等により、
営業利益は前年同期比624百万円増（63.4%増）の1,609百万円となりました。



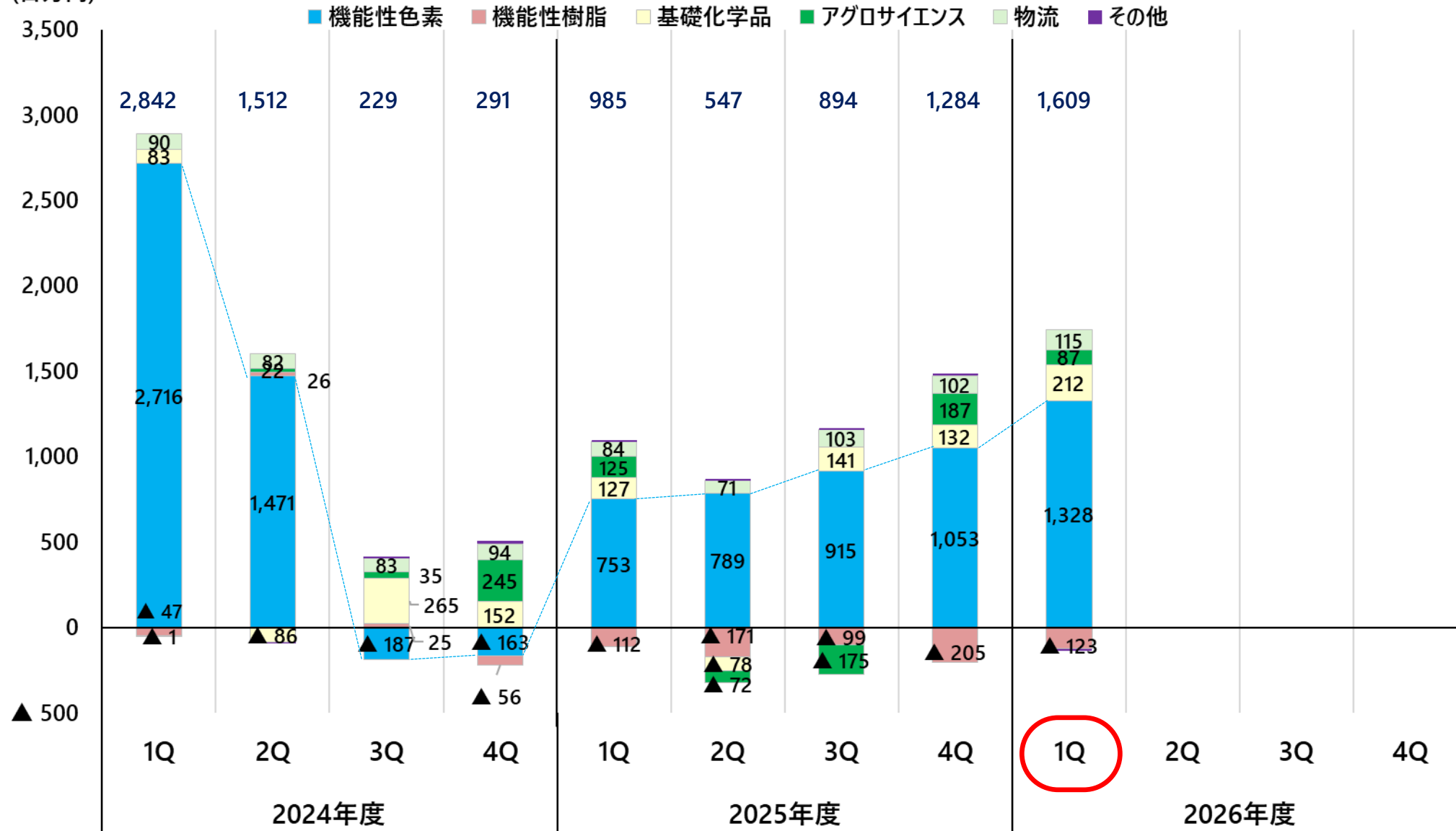
連結経営成績業績の推移（四半期毎）



(百万円)



(百万円)



セグメント別 売上高（百万円）	2024年度 1Q	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前期比 増減
機能性色素	8,909	5,998	6,763	+764
機能性樹脂	1,948	1,650	1,970	+320
基礎化学品	1,821	1,779	1,990	+210
アグロサイエンス	1,297	1,455	1,562	+106
物流関連	477	470	481	+11
その他	34	27	39	+12
合 計	14,489	11,381	12,808	+1,426

セグメント別 営業利益（百万円）	2024年度 1Q	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前期比 増減
機能性色素	2,716	753	1,328	+574
機能性樹脂	▲47	▲112	▲123	▲11
基礎化学品	83	127	212	+85
アグロサイエンス	▲1	125	87	▲38
物流関連	90	84	115	+30
その他	0	5	▲10	▲16
合 計	2,842	985	1,609	+624

連結貸借対照表 (百万円)	前連結会計年度 (2026年3月31日)	2026年度 1 Q 連結会計期間 (2026年6月30日)	前期比 増減
総 資 産 (現 金 及 び 預 金)	86,413 (10,137)	90,222 (10,540)	+ 3,808 (+403)
純 資 産 (株 主 資 本)	63,613 (43,303)	65,752 (43,777)	+ 2,139 (+ 474)
(自 己 資 本)	(52,581)	(54,267)	(+ 1,686)
自 己 資 本 比 率	60.8%	60.1%	▲0.7%pt
有 利 子 負 債	9,242	9,025	▲216

連結キャッシュフロー (百万円)	2025年度 1 Q 連結累計期間	2026年度 1 Q 連結累計期間	前期比 増減
営 業 活 動 に よ る C F (税金等調整前四半期純利益) (減価償却費)	840 (1,261) (821)	1,912 (1,861) (729)	+ 1,071 (+600) (▲92)
投 資 活 動 に よ る C F (定期預金の預入/払戻による増減) (固定資産の取得による支出)	▲426 (1,069) (▲1,459)	▲401 (851) (▲1,160)	+ 24 (▲217) (+299)
財 務 活 動 に よ る C F	▲645	▲256	+388
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 四 半 期 末 残 高	7,488	9,367	+1,879

1.

2026年度 第1四半期 決算概要（連結）

2.

各セグメントの主要製品
セグメント別 業績推移・動向

強み

機能性色素

有機EL他

「有機合成技術」「精製技術」を絶えずミガキ、未来の豊かな暮らしを支える新たな事業領域へ果敢に挑戦する力

- 発光材料、輸送材料、表面保護材料
- バイオ材料（オリゴ核酸合成）
- コピーター用材料
- カラーフィルター用染料
- ペロブスカイト型太陽電池材料
- 半導体用材料（レジスト材料）



色素事業

- アルミ着色用染料
- 文具用染料
- カラートリートメント用染料
- 天然色素（食用・工業用）



強み

機能性樹脂

機能化学品事業

「ホスゲン化技術」を核としたグローバル・ニッチトップの地位確立により、人々の豊かな暮らしと環境調和の両立を実現する高付加価値スペシャリティ品を世界へ届ける力

- ウレタン原料（PTG、BIO-PTG、PTG-SOFTENA等）
- ホスゲン誘導体（医薬・樹脂・電子材料用中間体）
- 接着剤
- 剥離剤



- 土木・建築用材料（ウレタン系）
- 防水・止水工事



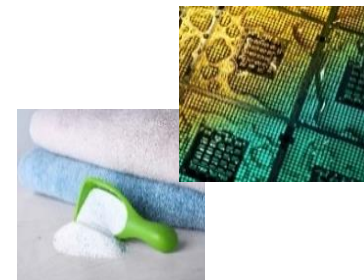
強み

基礎化学品

パーオキシサイド事業

長年培った過酸化水素の製造技術と強固な安定供給網を基に、衣食住から先端分野まで、時代の求める新たな用途へ展開する発想力

- 過酸化水素
- 過炭酸ナトリウム
- 過酢酸（除菌用、食添用）
- 工業薬品



強み

アグロ

農薬事業

「製剤化技術」をベースとした独創的な製品開発を通じ、環境対応を軸とした新たな市場を共創する力

- 除草剤
- 殺虫剤
- 殺菌剤
- 農業資材（酸素供給剤）



強み

物流関連

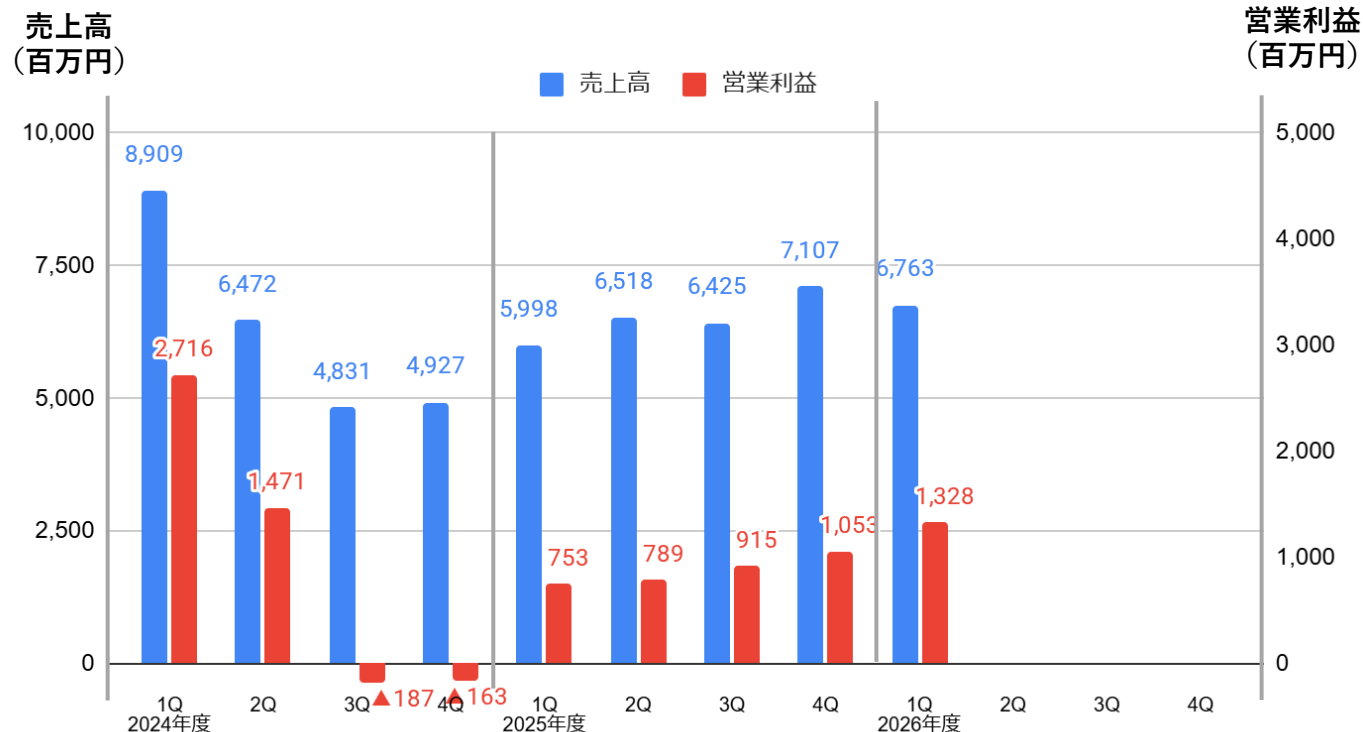
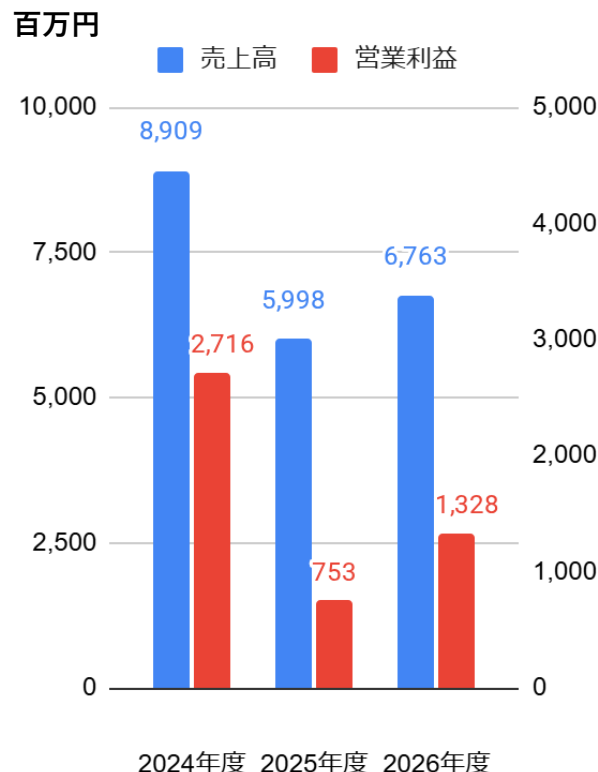
物流関連事業

危険物・化学品の「取り扱いノウハウ」と先進技術の融合により次世代の安心・安全をカタチにする力

- 倉庫業（危険物/一般品）
横浜営業所、郡山営業所、南陽営業所
- 貨物利用運送取扱業
- ISOタンクコンテナ保管事業



1Q

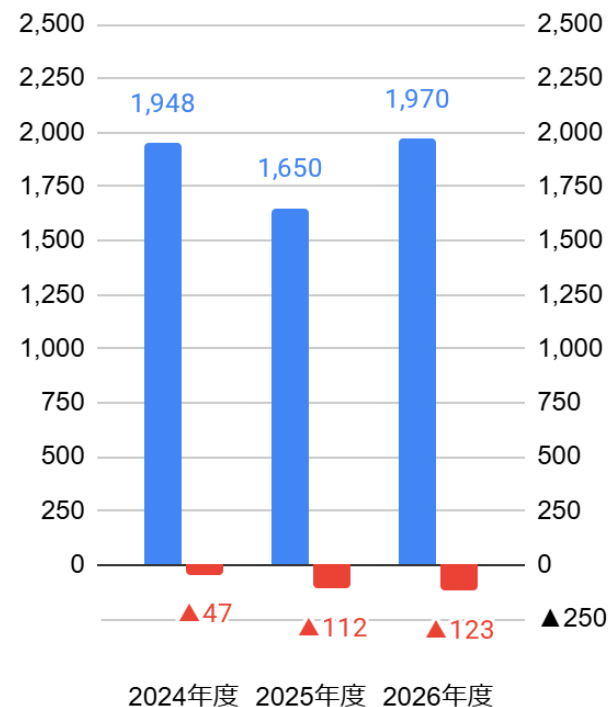


各事業の動向

- 【有機EL材料事業】は、ディスプレイメーカーでのシェア競争等による影響が継続しているものの、スマートフォン新モデル向けの出荷が増加したことにより、大幅な増収となりました。
- 【色素材料事業】は、アルミ着色用染料において、環境対応型製品の競争激化と既存品の販売減少により、大幅な減収となりました。
- 【イメージング材料事業】は、プリンター向け材料の需要が堅調に推移し、前年同期並みとなりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比764百万円増（12.7%増）の6,763百万円となりました。

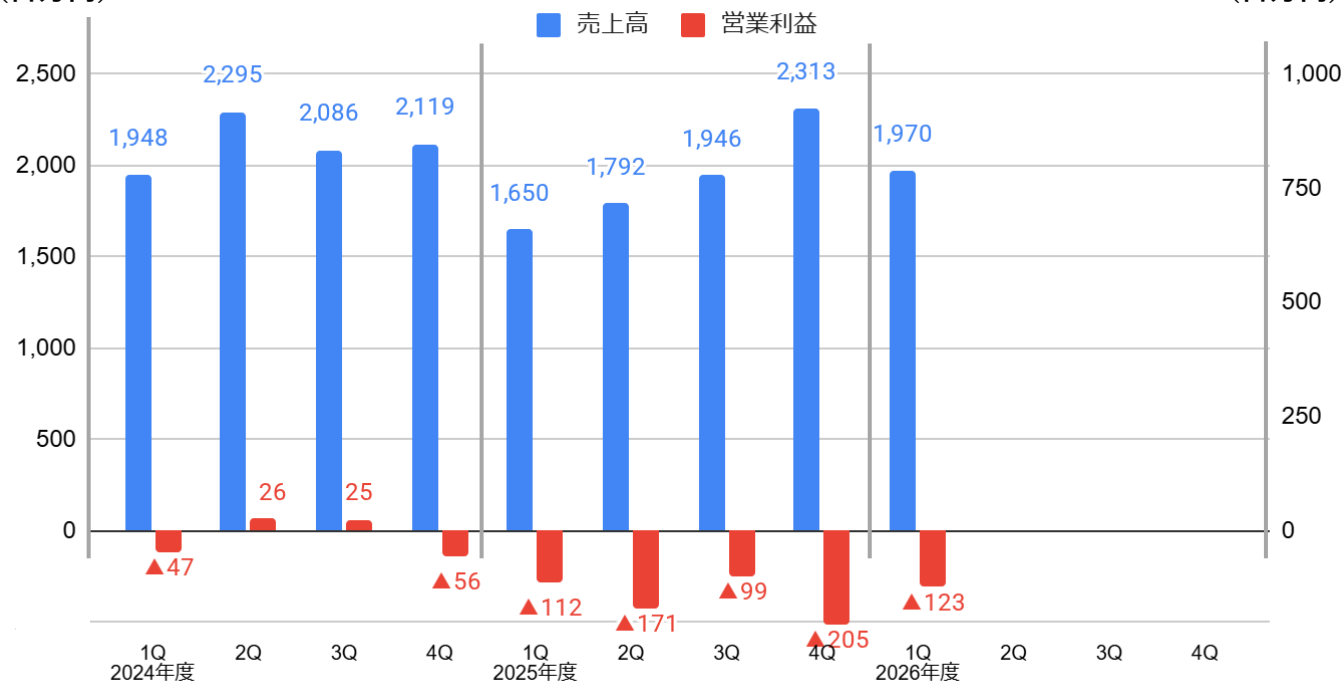
1Q

百万円



売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)



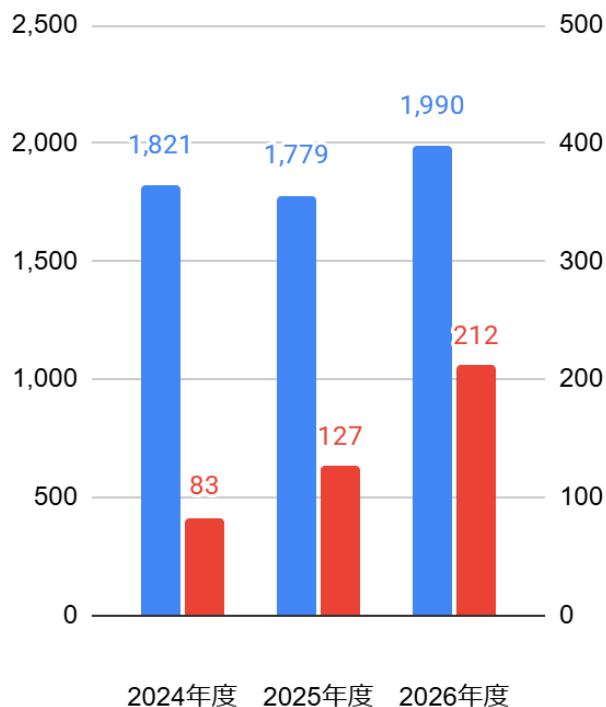
各事業の動向

- 【樹脂材料事業】は、ウレタン材料の需要増加等により、大幅な増収となりました。
- 【建築材料事業】は、ウレタン防水材料において、中東情勢の影響による市場での製品供給不安を背景とした需要の高まりにより、大幅な増収となりました。
- 【特殊化学品事業】は、一部主力製品の需要が増加したものの、前年度第1四半期に出荷が集中した剥離材向け及び医薬向けの販売が減少し、事業全体としては大幅な減収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比320百万円増（19.4%増）の1,970百万円となりました。

1Q

百万円

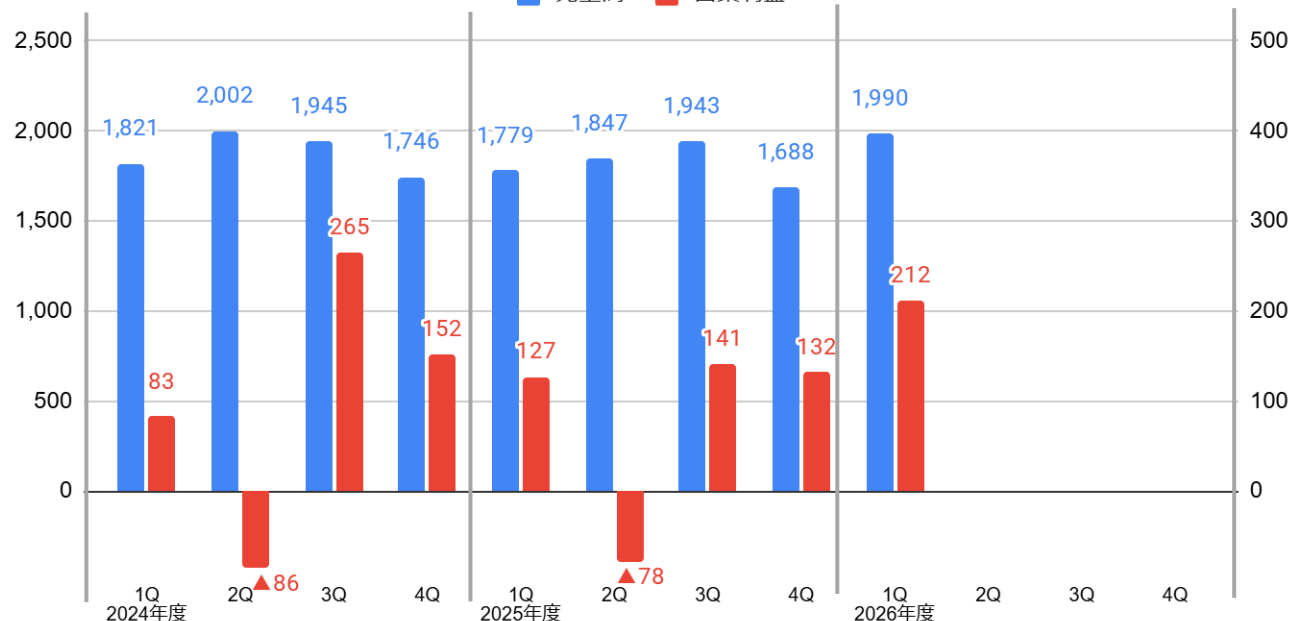
■ 売上高 ■ 営業利益



売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益



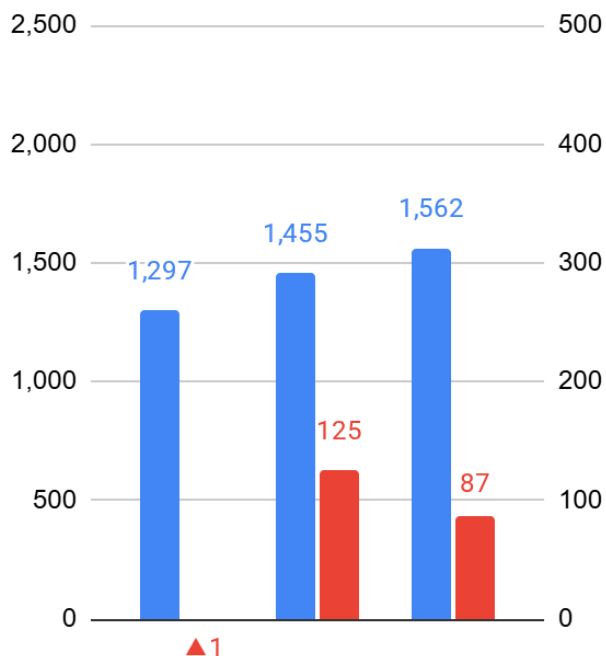
各事業の動向

- 【過炭酸ナトリウム】は、販売が減少したものの、【過酸化水素】において半導体向けや紙パルプ向けの需要増加により、大幅な増収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比210百万円増（11.8%増）の1,990百万円となりました。

1Q

百万円

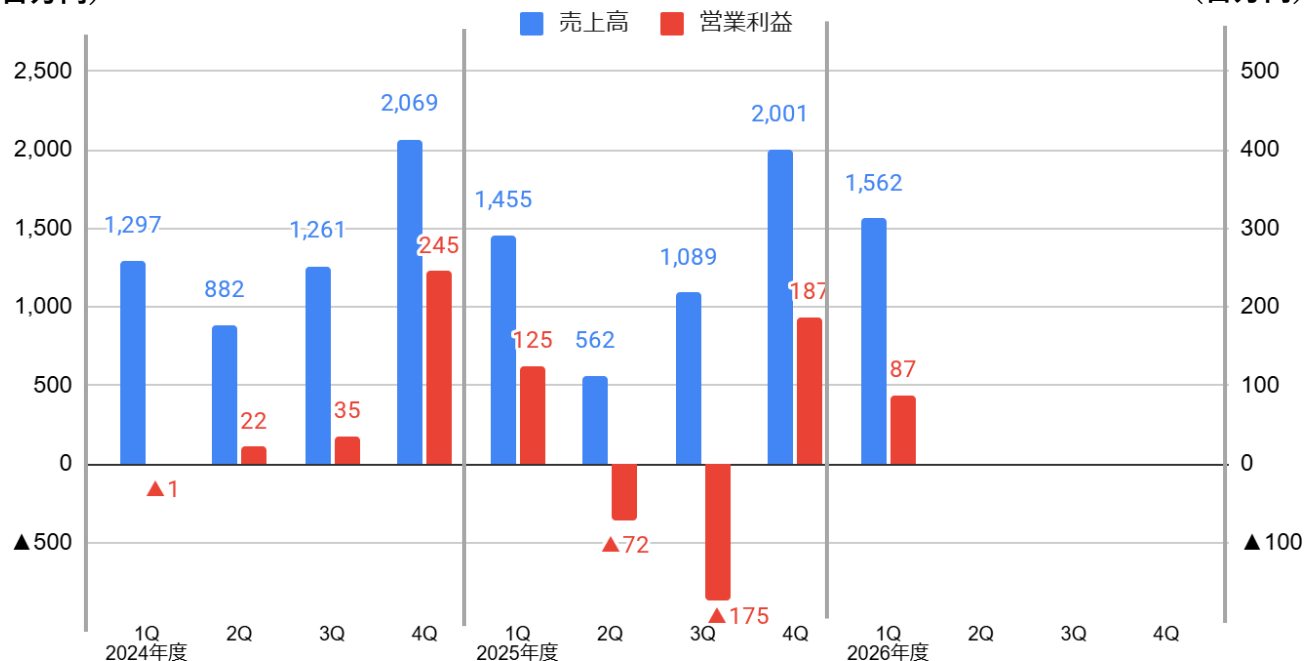
■ 売上高 ■ 営業利益



2024年度 2025年度 2026年度

売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)



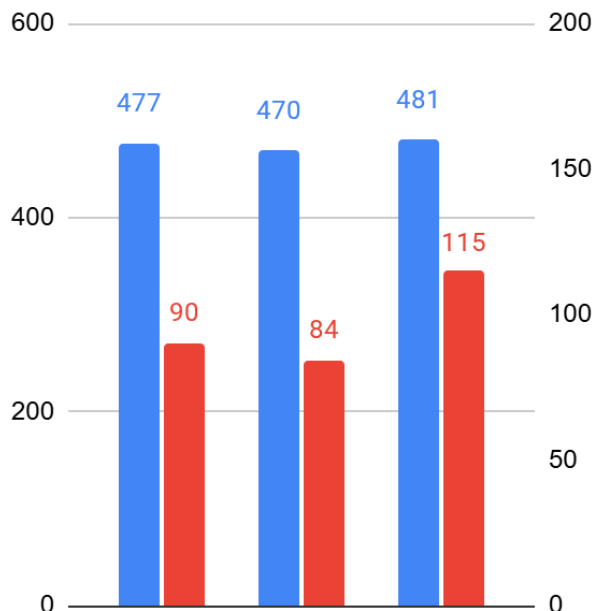
各事業の動向

- 【除草剤】は、家庭園芸向けでの新製品の需要増加や、鉄道向けの需要が堅調に推移したことに加え、ゴルフ場向け殺菌剤の販売が増加し、増収となりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比106百万円増（7.3%増）の1,562百万円となりました。

1Q

百万円

■ 売上高 ■ 営業利益

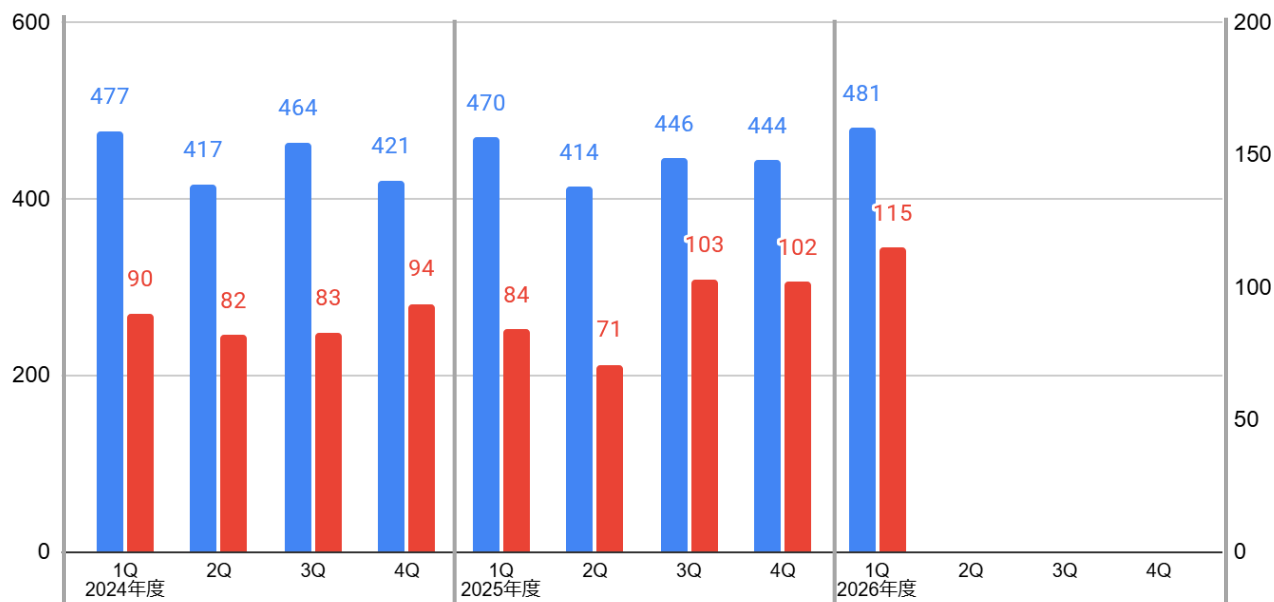


2024年度 2025年度 2026年度

売上高
(百万円)

営業利益
(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益



各事業の動向

- 国内および輸出入向けの荷動きが堅調に推移したほか、ISOタンクコンテナ保管事業の好調により、前年同期並みとなりました。
- 以上の結果、当セグメントの売上高は、前年同期比11百万円増（2.5%増）の481百万円となりました。

《 注意事項 》

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績・配当は今後様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

【お問い合わせ先】

保土谷化学工業株式会社
経営企画部

 03-6852-0327

 www.hodogaya.co.jp

